大阪医科薬科大学病院整形外科専門研修プログラム

目次

1. 大阪医科薬科大学病院整形外科専門研修プログラムについて

2. 大阪医科薬科大学病院整形外科専門研修の特徴

3. 大阪医科薬科大学病院整形外科専門研修の目標

4. 大阪医科薬科大学病院整形外科専門研修の方法

5. 専門研修の評価について

6. 研修プログラムの施設群について

7. 専攻医受入数

8. 地域医療・地域連携への対応

9. サブスペシャリティ領域との連続性について

10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

11. 専門研修プログラムを支える体制

12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

13. 専門研修プログラムの評価と改善

14. 専攻医の採用と修了

1. 大阪医科薬科大学病院整形外科専門研修プログラムについて

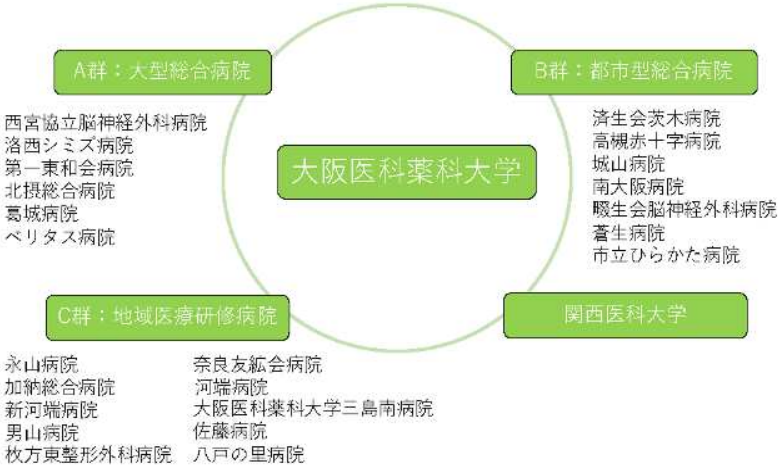
大阪医科薬科大学（2021 年 4 月 1 日より大阪医科大学から大阪医科薬科大学へ名称変更しました）は 1927 年（昭和 2 年）に創立され、2017 年には創立 90 年を迎えた関西を代表する医療系大学の一つです。大学は大阪と京都のほぼ中央に位置し、電車を使えば大阪と京都に 15 分でアクセスでき、阪急電鉄の高槻市駅、JR 高槻駅からも徒歩圏内と恵まれた立地環境にあります。大阪医科薬科大学整形外科学教室は 1952 年に開講し、60 年以上の歴史を持つ診療科です。整形外科のサブスペシャリティは多岐にわたりますが、当教室では各専門領域において経験豊富な指導医が在籍し、大学病院としての高度な医療を提供しています。そのため専攻医は本研修プログラムを通して様々な専門性の高い症例を経験することができます。研究面においても、各専門領域において世界的に注目されるような独創性のある研究を行っていますので、研修修了後には興味のある研究グループの活動に加わることもできます。

大阪医科薬科大学整形外科学教室の理念

臨床：高度で先進的かつ安全な医療を提供すること
研究：医療の底上げになるような理論を構築すること
教育：疑問点に対して合理的に考えることのできる整形外科医を育成すること

本研修プログラムは大阪医科薬科大学整形外科学教室の理念に基づいて形成されています。4年間に4病院をローテーションすることにより、医療の発展に貢献できる整形外科専門医を育成します。4年間の研修プログラムのうち1年間は、大阪医科薬科大学整形外科学教室において研修を行い、整形外科のすべての分野において疾患に対する知識、診察手技、画像解釈、診断、手術手技の基本を修得します。学会発表や論文作成を行うことにより論理的思考能力を身につけます。各分野の指導医が専攻医の教育・指導にあたりますが、専攻医自身も主体的に学ぶ姿勢をもち自己研鑽を重ねることで大きな成果が期待できます。患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くことも重要であり、カンファレンスでの発表や患者診察には積極的に参加していただきます。残りの3年間は連携施設を1年ごとにローテーションすることで、研修修了に必要な45単位を修得できます。本研修プログラム全体の手術数は約23000例（2025年）であり、研修修了までに経験する必要のある手術数（160例）を大きく上回る数の手術を経験することができます。本研修プログラム修了後には、大阪医科薬科大学大学院へ進学する専攻医が多いですが、連携病院へ就職することもできます。希望されればアメリカやヨーロッパに研究留学することも可能です。

大阪医科薬科大学を中心とした太陽系形式の研修プログラム



医療機関	修得可能な研修領域
大阪医科薬科大学	a,b,c,e,f,g,i,j
関西医科大学	a,b,c,e,f,g,i,j
葛城病院	a,b,c,d,e,f,g,h
西宮協立脳神経外科病院	a,b,c,d,e,f,g,h
ベリタス病院	a,b,c,d,e,f,g,h
第一東和会病院	a,b,c,d,e,f,g,h
洛西シミズ病院	a,b,c,d,e,f,g,h
北摂総合病院	a,b,c,d,e,f,g,h
城山病院	a,b,c,d,e,f,g,h
済生会茨木病院	d,f,h
南大阪病院	b,c,d,e,f,h
高槻赤十字病院	a,b,d,f,g
畷生会脳神経外科病院	c,d,e,f,g,h
蒼生病院	a,d,e
永山病院	a,b,d,e,g,h
奈良友紘会病院	d,f,h
佐藤病院	a,b,d,f
男山病院	b,d,e,f,g,h
市立ひらかた病院	c,d,f,h
加納総合病院	a,d,f,h
八戸ノ里病院	b,d,f,h
枚方東整形外科病院	b
河端病院	a,b,d,f,g,h
新河端病院	c,d,f
大阪医科薬科大学三島南病院	a,d,f

a 脊椎
b 上肢、手
c 下肢
d 外傷
e リウマチ
f リハビリ
g スポーツ
h 地域医療
i 小児
j 腫瘍

研修ローテーション例

医療機関		1年目	2年目	3年目	4年目
大阪医科薬科大学		専攻医1,2,3,4,5,6	専攻医7,8,9,10	専攻医11,12,13,14	専攻医15,16
関西医科大学				専攻医7	専攻医8
墓城病院	A群：大型総合病院		専攻医2	専攻医8	専攻医1
西宮協立脳神経外科病院	A群：大型総合病院	専攻医8	専攻医4	専攻医1	専攻医7
ペリタス病院	A群：大型総合病院	専攻医9	専攻医5	専攻医15	専攻医4
第一東和会病院	A群：大型総合病院		専攻医1	専攻医3	専攻医5
洛西シミズ病院	A群：大型総合病院	専攻医7	専攻医6	専攻医9	専攻医12
北摂総合病院	A群：大型総合病院	専攻医10	専攻医11	専攻医16	専攻医2
城山病院	B群：都市型総合病院		専攻医16	専攻医2	専攻医6
済生会茨木病院	B群：都市型総合病院		専攻医3	専攻医10	専攻医9
南大阪病院	B群：都市型総合病院	専攻医12			
高槻赤十字病院	B群：都市型総合病院			専攻医6	専攻医10
聖生会脳神経外科病院	B群：都市型総合病院				専攻医3
善生病院	B群：都市型総合病院		専攻医12		
市立ひらかた病院	B群：都市型総合病院			専攻医4	
永山病院	C群：地域医療研修病院	専攻医16		専攻医5	専攻医14
奈良友紘会病院	C群：地域医療研修病院	専攻医14			
佐藤病院	C群：地域医療研修病院	専攻医13			
男山病院	C群：地域医療研修病院		専攻医13		
加納総合病院	C群：地域医療研修病院				専攻医11
八戸ノ里病院	C群：地域医療研修病院		専攻医14		
枚方東整形外科病院	C群：地域医療研修病院				専攻医13
河端病院	C群：地域医療研修病院	専攻医15			
新河端病院	C群：地域医療研修病院		専攻医15		
大阪医科薬科大学三島南病院	C群：地域医療研修病院	専攻医11			

専攻医修得単位

	1年目	2年目	3年目	4年目
専攻医1	a2,b2,c0,e2,f2,g0,i2,j2	a2,b2,c2,d2,e1,f1,g2,h0	a2,b1,c2,d2,e1,f1,g1,h2	a1,b2,c2,d2,e1,f0,g0,h1
専攻医2	a2,b2,c0,e2,f2,g0,i2,j2	a2,b2,c2,d2,e1,f1,g2,h0	a2,b1,c2,d2,e1,f1,g1,h2	a1,b2,c2,d2,e1,f0,g0,h1
専攻医3	a2,b2,c0,e2,f2,g0,i2,j2	d6,f1,h2	a4,b4,c0,d0,e0,f1,g1,h2	c6,d1,e1,f2,g1,h1
専攻医4	a2,b2,c0,e2,f2,g0,i2,j2	a2,b2,c2,d2,e1,f1,g2,h0	c4,d2,f1,h2	a3,b3,c0,d2,e2,f0,g1,h1
専攻医5	a2,b2,c0,e2,f2,g0,i2,j2	a2,b2,c2,d2,e1,f1,g2,h0	a2,b1,d2,e1,g1,h2	a1,b2,c4,d2,e1,f1,g0,h1
専攻医6	a2,b2,c0,e2,f2,g0,i2,j2	a0,b2,c2,d2,e1,f1,g2,h2	a4,b1,d2,f1,g1	a1,b2,c4,d2,e2,f0,g0,h1
専攻医7	a2,b1,c2,d2,e1,f1,g1,h2	a2,b2,c0,e2,f2,g0,i2,j2	a2,b1,c2,d2,e1,f1,g1,i1,j1	a1,b2,c2,d2,e0,f0,g1,h1
専攻医8	a2,b1,c2,d2,e1,f1,g1,h2	a2,b2,c0,e2,f2,g0,i2,j2	a1,b2,c2,d2,e0,f0,g1,h1	a2,b1,c2,d2,e1,f1,g1,i1,j1
専攻医9	a2,b1,c2,d1,e2,f1,g1,h2	a2,b2,c0,e2,f2,g0,i2,j2	a3,b3,c4,d0,e0,f0,g2,h0	d5,f2,h2
専攻医10	a1,b1,c4,d0,e2,f1,g1,h2	a2,b2,c2,e2,f0,g0,i2,j2	d5,f2,h2	a4,b3,d1,f2,g2
専攻医11	a4,d2,f3	a0,b4,c4,d0,e2,f0,g1,h1	a0,b2,c2,e2,f0,g2,i2,j2	a4,d5,f1,h2
専攻医12	b2,c2,d2,e0,f4,h2	a4,d5,e0	a0,b2,c2,e2,f0,g2,i2,j2	a4,b2,c2,d0,e2,f0,g1,h1
専攻医13	a8,b2,d2,f0	b0,d5,e2,f4,g2,h0	a0,b2,c2,e2,f0,g2,i2,j2	b2,c4,d0,f0,g0,h3
専攻医14	d2,f4,h3	b5,d5,f1,h1	a2,b0,c6,e0,f0,g0,i2,j2	a4,b1,d1,e3,g3,h0
専攻医15	a3,b4,d2,f0,g2,h1	c4,d4,f1	a2,b1,c2,d0,e3,f1,g1,h2	a2,b2,c0,e2,f2,g0,i2,j2
専攻医16	a3,b4,d2,e0,g2,h1	a0,b0,c4,d4,e0,f1,g0,h0	a2,b1,c2,d0,e3,f1,g1,h2	a2,b2,c0,e2,f2,g0,i2,j2

専攻医修得単位合計

	修得単位	計
専攻医1	a7,b7,c6,d6,e5,f4,g3,h3,i2,j2	45単位
専攻医2	a7,b7,c6,d6,e5,f4,g3,h3,i2,j2	45単位
専攻医3	a6,b6,c6,d7,e4,f5,g4,h3,i2,j2	45単位
専攻医4	a7,b7,c6,d6,e5,f4,g3,h3,i2,j2	45単位
専攻医5	a7,b7,c6,d6,e5,f4,g3,h3,i2,j2	45単位
専攻医6	a7,b7,c6,d6,e5,f4,g3,h3,i2,j2	45単位
専攻医7	a7,b6,c6,d6,e4,f4,g3,h3,i3,j3	45単位
専攻医8	a7,b6,c6,d6,e4,f4,g3,h3,i3,j3	45単位
専攻医9	a7,b6,c6,d6,e4,f5,g3,h4,i2,j2	45単位
専攻医10	a7,b6,c6,d6,e4,f5,g3,h4,i2,j2	45単位
専攻医11	a8,b6,c6,d7,e4,f4,g3,h3,i2,j2	45単位
専攻医12	a8,b6,c6,d7,e4,f4,g3,h3,i2,j2	45単位
専攻医13	a8,b6,c6,d7,e4,f4,g3,h3,i2,j2	45単位
専攻医14	a6,b6,c6,d8,e3,f5,g3,h4,i2,j2	45単位
専攻医15	a7,b7,c6,d6,e5,f4,g3,h3,i2,j2	45単位
専攻医16	a7,b7,c6,d6,e5,f4,g3,h3,i2,j2	45単位

手術件数表

0	基幹施設	大阪医科薬科大学		大阪府	2842	159	218	356	54	30	53	22	129	102
1	連携施設	関西医科大学附属病院	他プログラムの基幹	大阪府	3384	845	228	597	120	9	36	23	12	187
2	連携施設	高槻病院		大阪府	9875	435	327	433	791	37	77	31	18	214
3	連携施設	西宮協立脳神経外科病院	他プログラムの基幹	兵庫県	4458	109	355	137	889	76	94	15	37	171
4	連携施設	ベリタス病院	他プログラムの基幹	兵庫県	2675	14	133	151	561	1	3	45	7	91
5	連携施設	第一東和会病院		大阪府	3983	51	182	196	533	18	256	16	8	126
6	連携施設	洛西シミズ病院	他プログラムの基幹	京都府	4005	39	115	150	445	5	15	5	8	78
7	連携施設	北摂総合病院		大阪府	1448	107	183	127	626	5	40	3	66	115
8	連携施設	城山病院		大阪府	3220	223	43	287	423	0	0	0	4	98
9	連携施設	済生会茨木病院		大阪府	1055	205	48	6	347	5	10	0	7	62
10	連携施設	南大阪病院		大阪府	2250	45	42	106	258	10	5	4	7	47
11	連携施設	高槻赤十字病院		大阪府	2056	48	77	34	265	1	11	0	3	43
12	連携施設	堀生会脳神経外科病院		大阪府	2024	0	78	188	250	6	20	2	9	55
13	連携施設	香生病院		大阪府	3314	51	55	54	467	12	15	5	10	66
14	連携施設	永山病院		大阪府	1301	68	24	15	245	0	6	5	1	36
15	連携施設	奈良友紘会病院		奈良県	1664	20	18	16	93	0	0	0	1	14
16	連携施設	佐藤病院		大阪府	25814	66	101	28	204	3	2	0	2	40
17	連携施設	男山病院		京都府	2302	38	185	81	269	5	0	0	16	59
18	連携施設	市立ひらかた病院		大阪府	1018	5	48	271	287	0	12	0	8	63
19	連携施設	加納総合病院		大阪府	1957	54	27	18	405	5	5	3	2	61
20	連携施設	八戸ノ里病院		大阪府	2014	43	8	34	443	0	0	0	0	52
21	連携施設	河端病院		京都府	4735	0	54	119	335	0	0	0	9	51
22	連携施設	新河端病院		京都府	2943	8	0	30	238	0	0	0	4	28
23	連携施設	枚方東整形外科病院		大阪府	7397	34	31	107	397	0	0	0	0	56
24	連携施設	大阪医科薬科大学三島南病院		大阪府	1295	103	35	57	91	0	0	0	8	29
計					99029	2770	2615	3598	9036	228	660	179	376	1956

2. 大阪医科薬科大学病院整形外科専門研修の特徴

1か月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを 10の研修領域（脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリ、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍）に分割します。大阪医科薬科大学と連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた必要単位数を修得することができます（合計45 単位）。

大阪医科薬科大学（基幹施設）における研修

スタッフ

教授　大槻周平（平成10年大阪医科大学卒業）関節外科（軟骨再生
准教授　馬場一郎（平成元年大阪医科大学卒業）脊椎外科、骨軟部腫瘍
診療准教授　横田淳司（平成3年大阪医科大学卒業）上肢、基礎研究、外傷
講師　岡本純典（平成11年大阪医科大学卒業）膝、股関節
講師　藤城高志（平成18年大阪医科大学卒業）脊椎・脊髄外科
助教　羽山祥生（平成20年大阪医科大学卒業）脊椎・脊髄外科
助教　藤野圭太郎（平成20年大阪医科大学卒業）手の外科
助教　若間仁司（平成22年東海大学卒業）膝、股関節
助教　東迎高聖（平成22年大阪医科大学卒業）足の外科
助教　大保拓也（平成23年大阪医科大学卒業）脊椎・脊髄外科
助教　池田邦明（平成23年大阪医科大学卒業）膝関節外科
助教　石谷　貴（平成26年大阪医科大学卒業）膝関節外科
助教　山本祐樹（平成 28 年滋賀医科大学卒業）脊椎・脊髄外科
助教（准）　田中　憲（平成 28 年大阪医科大学卒業）足の外科
助教（准）　吉村柚木子（平成 28 年大阪医科大学卒業）手外科

週間予定

	月	火	水	木	金	土
午　前	外来／ または手術	抄読会 ／手術	外来	外来	カンファレンス ／手術	外来/手術
午　後	カンファレンス／教授回診	手術	手術	諸検査	手術	

【股・膝関節外科】

膝スポーツ損傷に対しては、鏡視下に ACL 靭帯再建術や半月板縫合術を行い、膝蓋骨不安定症にはオリジナルの三次元脛骨粗面移動術により良好な治療成績を得ています。変形性膝関節症に対しては進行期までは関節温存を第一に様々な種類の膝周囲骨きり術(HTO など)で治療し、これらは積極的に学会、論文報告をしています。末期関節症には人工関節置換術(TKA) や再置換術(revision TKA)で対応し、股関節症に対しては前側方アプローチのセメント固定の人工股関節手術(THA)を行っています。

【脊椎・脊髄外科】

環軸関節亜脱臼などの上位頸椎疾患や胸椎後縦靭帯骨化症、脊髄腫瘍、高度な変形を伴う側弯症、後弯症など一般病院では対応の難しい高難度の手術を主に行っています。また側方侵入腰椎前方固定手技(OLIF)を用いて、低侵襲で合併症の軽減を目指した矯正固定手術を行っています。さらに骨粗鬆性圧迫骨折偽関節による遅発性神経障害に対しては、無除圧固定術を施行して良好な成績をおさめています。ナビゲーションシステム、手術用顕微鏡、運動誘発電位を用いた術中脊髄モニタリング、術中超音波検査、内視鏡手術などを導入し、安全性を向上させるとともに、効果的な手術を提供できるように努めています。

【肩肘の外科】

肩腱板広範囲断裂に対しては、大阪医大で考案した鏡視下肩上方関節包再建術が世界中に広がり、現在は世界各国の整形外科医が見学に来られています。肩肘の関節鏡手術のレベルは高く、世界各地で手術手技の講習を行っています。投球による肩肘障害に対して世界トップレベルの治療成績を上げており、プロ選手を含む多くのアスリートを治療しています。難治症例に対する人工肩関節置換術の経験も豊富です。

【手外科】

麻痺に対する機能再建手術、先天性/外傷性の関節変形や拘縮に対する矯正術や解離術、人工関節置換術などを行っています。手関節、手指関節に対する手術や手根管開放術には内視鏡による小侵襲手術を積極的に導入しています。

【足の外科】

外反母趾に対しては近位中足骨回外骨切り術により、またその併存症に対しても独自の術式により良好な治療成績を得ています。足関節インピンジメント症候群などスポーツ損傷例に対しては早期復帰を目指し、積極的に鏡視下手術を行っています。陳旧性アキレス腱断裂に対しては、自家腱を犠牲にしない瘢痕組織を利用する手術を行っています。

【小児、腫瘍】

重度の骨関節変形や脚長不等に対しては、創外固定器を用いた変形矯正術や仮骨延長による骨長調整術を行っています。骨軟部腫瘍領域や先天性内反足などの小児整形外科領域の難治性疾患に対しても高度な治療を行い、良好な成績を得ています。

【スポーツ、リウマチ、リハビリ】

スポーツとリウマチの分野は全てのグループが疾患ごとに対応しており、高度な医療を提供しています。また全ての疾患においてリハビリは重要であり、保存的治療とともに術後リハビリにも力を入れています。

専門研修連携施設における研修

専門研修連携施設においては、基幹病院である大阪医科薬科大学では修得できない“外傷”と“地域医療”の単位を修得していただきます。また各病院にサブスペシャリティをもつ指導医が勤務していますので、その他の単位を修得することもできます。

専門研修連携施設の紹介（順不同）

●大阪医科薬科大学三島南病院

スタッフ紹介

院長　特務教授	金　明博（昭和 59 年　大阪医科大学卒業） 専門分野；脊椎・脊髄疾患、整形外科一般、外傷
部長　特務准教授	中野敦之（平成 7 年　大阪医科大学卒業） 専門分野；脊椎・脊髄疾患、整形外科一般、外傷
医員	1 名

当院は大阪医科大学の付設医療施設として平成 27 年 7 月 1 日に開設されました。急性期病棟に加え、回復期リハビリテーション、療養型、地域包括ケアの病棟を合わせ持ち、血液浄化センター、通所リハビリテーション施設も併設するケアミックス型病院です。総病床数は 214 床であり、整形外科に関しては外傷を中心とした 1 次、2 次救急から、慢性疾患の保存・手術療法、さらには手術後の回復期リハビリテーションまで、整形外科全般に渡り幅広い臨床対応を行っています。スタッフの充実も図られており、手術療法のみならずリハビリテーション、地域医療を含めた整形外科全般の研修には適した施設です。近い将来には阪急茨木市駅前への移転も計画されており、今後更なる発展が期待されています。

●葛城病院

スタッフ紹介

理事長	大植 睦（平成 3 年大阪医科大学卒業）、脊椎脊髄、関節外科
院長	中島幹雄（昭和 56 年大阪医科大学卒業）、関節外科
部長	裏岡富次（平成 2 年旭川医科大学卒業）、救急•外傷外科

部長　　常徳　剛（平成 4 年大阪医科大学卒業）、足の外科、関節外科
部長　　北野　直（平成 8 年大阪医科大学卒業）、足の外科
医長　　小田周平（平成 17 年大阪医科大学卒業）、関節外科
医長　　藤澤幸隆（平成 13 年大阪医科大学卒業）、肩・手の外科
医員　　矢野冬馬（平成 21 年大阪医科大学卒業）、脊椎・脊髄外科

後期研修医　　1～2 名

葛城病院は急性期病棟 153 床、回復期リハビリ病棟 45 床、地域包括ケア病棟 45 床の計 243 床を有する私立病院で、整形外科、脳外科ならびに内科において専門的かつ高度な医療をいつでも提供できるように 365 日 24 時間体制で診療を行っております。

整形外科は 8 名の機構専門医が勤務しており、それぞれ専門領域は脊椎、関節、肩、手、足など偏在のない配置になっています。整形外科の年間手術件数は約 2200 件で、そのうちの約 6 割が疾病に関する手術、残りの約 4 割が外傷に関連する手術となっています。2024 年度における主な領域の手術件数は、脊椎 442 例（鏡視下手術 272 例）、人工関節約 360 例（股 130 例、膝 215 例など）、肩鏡視下手術 40 例でした。これらの手術以外にも広い領域において手術治療を行っており、外傷や保存治療例とあわせて豊富な症例を研修中に経験することが可能です。

後期研修医の業務には夜診や当直も含まれておりますが、スタッフが常時バックアップ体制をとることで安心して研修を受けられるシステムを構築しております。多忙ではありますが、限られた研修期間内に効率よく出来るだけ多くの症例を経験し、なおかつ自ら執刀する機会を多く持ちたいと考えておられる研修医の先生にとって、当院は間違いなく最適な研修病院に成り得ると考えています。スタッフ一同、全力で研修のサポートを行いますので是非、当院へ研修にお越し下さい。

●西宮協立脳神経外科病院

スタッフ紹介

副院長　　瀧川直秀（平成 5 年大阪医科大学卒業）　手肘、関節リウマチ
部長　　江城久子（平成 13 年大阪医科大学卒業）手肘、関節リウマチ

医長　　足立　周（平成 17 年大阪医科大学卒業）脊椎・脊髄外科
副部長　　平井佳宏（平成 25 年大阪医科大学卒業）足外科

後期研修医　2-4 名
名誉院長(大阪医科大学名誉教授)
　　木下光雄（昭和 49 年大阪医科大学卒業）足外科、関節リウマチ

西宮協立脳神経外科病院は大阪医科大学整形外科の関連病院の最も西に位置する病院です。病床数は 167 床で、1800 件以上の手術を施行しておりますが、地域連携を重視してどんどん転院しますので、整形外科の入院数は 60 人程度の急性期病院であり、下記のような特徴となっております。

① 手術数は約 1800 件で新鮮外傷の割合は約 60%。
② 各部位で内視鏡手術による最小侵襲手術を施行。
③ 手術は基本的に主治医執刀で、外傷を中心に多くの症例を経験できる。
④ 関節リウマチに対して、経口、点滴、皮下注製剤による化学療法を行っている。
⑤ 女性医師のための保育所がある。
⑥ 日本整形外科学会に加え日本手外科学会、日本リウマチ学会、日本リハビリテーション学会の認定研修施設になっている。

手術は医局員全員が外傷治療に携わり手、肘、肩、足、膝、股、脊椎の専門分野は各専門家が主導しています。内視鏡手術は、指（ばね指)、手関節（手根管症候群、TFCC 損傷)、肘関節（離断性骨軟骨炎、上腕骨外上顆炎)、肩関節（腱板損傷など)、足関節（離断性骨軟骨炎)、膝関節（ACL など)、脊椎（MED,MEL）に使用しており、2 台ある内視鏡を調整しながら手術を行っております。手術室は 4 室あるうち 3 室をほぼ毎日朝から夕方まで使用できるいい環境にあります。効率的に仕事ができるため、17 時すぎには帰宅できることと、月曜日から金曜日までの勤務で週休 2 日制のため勉強、研究に費やす時間も十分にとれると思います。当院でよく学び、よく遊びの精神でともに頑張りましょう。

●晋真会ベリタス病院

スタッフ
理事長　辻村知行　平成元年大阪医科大学卒　　手外科専門医、関節リウマチ

病院長　嶋　洋明　平成 9 年大阪医科大学卒　　足の外科認定医（人工関節（足）含む)、スポーツ医学
部長　　服部匡次　平成 8 年川崎医科大学卒　　手外科、外傷、関節外科
医長　　宮田愼平　平成 30 年大阪医科大学卒　関節外科、外傷
非常勤専門医
根木陽一郎　　平成 7 年大阪医科大学卒　　リウマチ専門医
森井淳司　　平成 22 年愛知医科大学卒　　脊椎脊髄外科指導医
石谷　貴　　平成 26 年大阪医科大学卒　　関節外科
田中　憲　　平成 28 年大阪医科大学卒　　足の外科
田中　敬　　令和元年大阪医科大学卒　　関節外科
後期研修医　1 名

晋真会ベリタス病院は、兵庫県川西市にある 199 床の急性期病院で、セコム医療システムと提携する全国 20 施設（海外 1 施設を含む）のうちの 1 施設です。基幹病院である大阪医科薬科大学附属病院から、電車で約 1 時間、自動車で約 40 分の所にあります。当院では、内科、消化器科、循環器科、外科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、神経内科、麻酔科、人間ドック・健康診断、救急部（24 時間診療）といった診療科を備え、地域の急性期医療を担っています。

整形外科は、4 名の専門医と 1 名の後期研修医による 5 名体制で診療にあたっています。自然に恵まれた落ち着いた環境の中で、川西市の中核的な急性期病院として、救急応需率 90%を目指して日々取り組んでいます。令和 7 年度の実績としては、新規患者数は平均 1913 人、手術件数は年間 1141 件でした。主な手術内容は外傷症例が中心ですが、以下のような実績があります：

- 脊椎手術：　45 件
- 人工股・膝関節置換術：　61 件
- 大腿骨頚部骨折
  - 人工骨頭挿入術：　70 件
  - 骨接合術：　18 件
- 大腿骨転子部骨折：　77 件

手術は原則として主治医が執刀を担当しており、後期研修医にも多くの執刀の機会が与えられます。看護部および診療協力部のスキルも高く、チームで迅速

な対応が可能です。麻酔科には常勤医が 3 名おり、医療安全を確保しつつ、原則として就業時間内に手術を終えるよう取り組んでいます。

●第一東和会病院

スタッフ紹介

副院長　藤田晃史　（平成 2 年大阪医科大学卒業）膝関節

部長　　森内宏充　（平成 9 年大阪医科大学卒業）膝関節

副部長　南巌太郎　（平成 4 年大阪医科大学卒業）膝関節

後期研修医　3 名

当院は大阪医薬大の近くに位置していることもあり、サテライト病院としての機能を果たす事と、地域医療へ貢献することが主な使命と考えています。さらに、我々は膝肩関節の治療を集約的に行える特化型の病院を目指しており、2014 年より膝スポーツ関節鏡センターを開設しました。病床数は 243 床あり、整形入院の患者さんは 70～80 名前後です。腰椎圧迫骨折等の保存加療症例や術後入院期間が 3 週を超えるような患者さんは、回復期リハビリ病院である第二東和会病院に転院して頂き、十分なリハビリテーションの後に退院して頂くシステムをとっています。常勤医は現在 6 名（令和 4 年 4 月）です。日中は少し忙しいかもしれませんが、コ・メディカルのスタッフとのチームワークが良好なおかげで夕方には終業できます。

手術室は 6 室あり、病院全体での手術件数は約 5000 件強、そのうちの約 4 分の 1 が整形外科です。手術の内訳は、半分が外傷（骨折手術）、半分が疾患（膝と肩関節の手術）です。当院の特徴である膝と肩関節手術には、スポーツ障害では関節鏡を用いた膝靱帯再建および半月板の手術や肩関節唇手術、また変性疾患では人工膝関節手術以外に高位脛骨骨切り術、関節鏡視下肩腱板手術が多く行われています。骨折の手術は原則として主治医が執刀するため、研修医の方々には基本的な手術手技を数多く経験して頂くことが出来ると思います。症例によっては膝関節手術も経験して頂きます。また我々は膝班の理学療法士の方々と共に、月に一度の勉強会や年 2 回程度の学会参加を行い、研究および向上心を持ち続けることを常としております。膝または肩関節に興味を持っておられる方は、是非当院に来て頂き、数多くの膝肩手術を経験して知見を広げて頂きたいと思います。

●洛西シミズ病院

スタッフ紹介

院長　　矢津匡也（平成 4 年大阪医科薬科大学卒）　脊椎外科
顧問　　奥田龍三（昭和 57 年大阪医科薬科大学卒）足の外科
副院長　田村竜一（昭和 61 年大阪医科薬科大学卒）関節外科
部長　　安井憲司（平成 11 年大阪医科薬科大学卒）上肢
部長　　廣藤真司（平成 12 年大阪医科薬科大学卒）手外科
副部長　万波　誠（平成 18 年近畿大学卒）　　関節外科
委員　　水谷正洋（平成 22 年大阪医科薬科大学卒）脊椎外科
専攻医　2～4 名

シミズ病院グループは京都市の西京区を中心として、4 病院、1 医院、2 老健施設、特別養護老人ホームなどを有し、全体で 1000 床を超える大きな組織です。整形外科の特徴は大阪医科薬科大学の常勤医を主体とした 7 名で 4 病院のうち３病院（シミズ病院・洛西シミズ病院・亀岡シミズ病院）を運営していることにあります。3 病院は互いに車で約１０分程度の距離に位置するため、洛西シミズ病院が整形外科センターの役割を受け持ち、ほとんどの手術は洛西シミズ病院で施行しています。

各常勤医師の専門が足の外科・関節外科・脊椎外科・手外科・関節リウマチ・救急外傷と整形外科のほぼすべての部位を網羅しており、各医師は種々の専門医を取得しています。このため高度な技術を要する整形外科治療・手術に幅広く対応が可能であり、年間手術件数は 800 件前後で推移しております。救急病院でもあり外傷が中心の病院と思われがちですが、半分以上は疾患の手術であり、外傷・疾患ともに十分な研修が可能です。

当院は以前より回復期リハビリテーション病棟を運営してきました。近年リハビリ需要の増加に伴い、平成２８年４月洛西シミズ病院の敷地内に 100 床の専門病棟と全国有数の面積を持つリハビリセンターを常設しております。

また手外科や脊椎脊髄病の専門医研修病院の指定を受けています。学会発表なども積極的に行っています。幅広い技術の取得、臨床研究にすぐれた病院と自負しており、整形外科研修の場としてふさわしいと考えます。

●北摂総合病院

スタッフ紹介

院長、手外科センター長　植田直樹（昭和 62 年大阪医科大学卒業)、
手外科、骨軟部腫瘍

病院長、中央手術センター長、主任部長　　劉　長勣（平成 7 年大阪医科大学卒業)、足の外科、人工関節、骨盤外傷

部長　福井浩一（昭和 63 年大阪医科大学卒業)、リハビリテーション

部長　浅井重博（平成 11 年大阪医科大学卒業)、関節外科

医員　木野圭一朗（平成 24 年近畿大学卒業)、脊椎外科

後期研修医 2 名

北摂総合病院は、地域医療支援病院、臨床研修指定病院であり、217 床全てが急性期病床です。救急医療が当院の柱であり、年間でおよそ救急車搬入 3395、入院患者数 5153、平均在院日数 11.8、手術室手術 2552、全身麻酔 1553 です。なかでも整形外科の総手術件数は年間約 1350 件で、精力的に活動しています。

当科では骨折はもとより、手外科、足の外科、膝関節外科、マイクロサージャリー、人工関節、脊椎手術、 腫瘍など幅広い領域での手術を行っています。また、難治症例に対する筋弁•筋皮弁や血管柄付き骨移植などの再建手術や近年導入したナビゲーションシステムを用いた骨盤、寛骨臼骨折の治療も行なっています。迅速な対応がし難い症例を担うことで、大学病院をサポートしています。

大学から派遣されるレジデント（後期研修医）が主治医の症例では、多少時間がかかってもできる範囲で手術を完遂させるように指導しております。

当院は診療科、常勤医が多いですがひとつの医局であり、他科と相談しやすい環境にあります。それにより、重度心疾患を伴う高齢者においても、麻酔科とともに、循環器内科のバックアップのもと手術が可能となっております。また、非常勤で 1 回／週　脊椎専門医の外来・手術日があり、特に必要な症例では大学病院や関連病院のエキスパートの先生からも手術指導を頂いており、これらは当科の強みであると考えています。

●大阪府済生会茨木病院

スタッフ紹介

院長補佐、部長 杉本裕宣 （平成元年大阪医科大学卒業　手外科、外傷一般）
部長 阿部宗樹（平成 10 年兵庫医科大学卒業　手外科、関節リウマチ、外傷 ）
医員 谷内　孝　、森山　泰仁

大阪府済生会茨木病院は、茨木市唯一の公的病院として、病床数 315 床（一般病棟 273、療養病棟 42）を有します。 整形外科の入院患者数は、常時 40人程度です。 現在スタッフは、常勤医師が 4 名で、日本整形外科学会認定専門医 2 名、後期研修医 2 名です。その他、大阪医科薬科大学整形外科より非常勤医師（横田診療准教授、岡本講師 ）の応援を受けています。後期研修医の先生は、外来診療、手術治療の中心的役割で、重要な研修の機会が与えられます。 年間手術件数は、555 件（2024）で、外傷手術が 2/3、変性疾患が 1/3 を占 めます。外傷に関しては、四肢全般の手術を扱っています。外傷治療の主役 は、研修医の先生で、上級医師のサポートの下で術者として執刀しています。 当院の特徴として、女性医師が多く勤務されています。出産後の勤務体制として、短時間勤務の制度を整えています。院内に保育所を設け、子育てをしながら働く女性医師が勤務しやすい病院となっています。女性医師のキャリアアップを支援しています。

●市立ひらかた病院

スタッフ紹介

主任部長	大原　英嗣（平成 4 年大阪医科薬科大学卒業）股関節外科
部長	飛田　高志（平成 17 年大阪医科薬科大学卒業）足の外科
部長	中川　浩輔（平成 21 年大阪医科薬科大学卒業）関節外科
医員	田中　敬（平成 31 年大阪医科薬科大学卒業）
非常勤	白井　久也（昭和 60 年大阪医科薬科大学卒業）手外科
非常勤	小坂　理也（昭和 61 年大阪医科薬科大学卒業）脊椎外科
非常勤	柴田弘太郎ロバーツ（平成 9 年関西医科大学卒業）関節外科
非常勤	村上　友彦（平成 21 年大阪医科薬科大学卒業）関節外科
非常勤	若間　仁司（平成 22 年東海大学卒業）関節外科
非常勤	清水　博之（平成 27 年大阪医科薬科大学卒業）肩関節

後期研修医　1 名

市立ひらかた病院は平成 26 年 9 月に現在の新病院が竣工、開院しています。標榜診療科は 25 に及び、急性期病院として地域医療に貢献しています。病院は京阪枚方市駅から徒歩 20 分にあり、大阪医科薬科大学からは車で 30 分程度と比較的近い距離にあります。大阪医科薬科大学のスタッフと密に連携しており、手術の応援など、協力体制が備わっています。整形外科は常勤医 4 名と非常勤医 6 名により、診療を行っています。救急車の応需を含めて一般外傷の受け入れは多く、その他に、股関節、膝関節、足部・足関節のそれぞれを専門とする医師が診療することで、疾病に対する治療も充実しています。令和 2 年 9 月より下肢機能再建センターを立ち上げ、患者の機能改善に向けて各分野の専門医が連携した診療を行っています。また、他の病院からの依頼で、手術や診療の見学希望者を受け入れ、好評を得ています。2024 年の年間手術件数は 713 件です。整形外科の一般的な診療から専門的な治療まで研修が可能と考えます。

●南大阪病院

スタッフ紹介

副院長、副理事長　大坂芳明（昭和 60 年大阪医科薬科大学卒業）手外科、人工関節

整形外科部長　　森川潤一（昭和 61 年大阪医科薬科大学卒業）足の外科、骨折

整形外科部長　　北原義大（平成 12 年大阪医科薬科大学卒業）脊椎外科

整形外科科長　　和田浩伺　外傷外科

整形外科医員　田中秀弥　外傷外科

大阪市住之江区に位置する病院です。地下鉄四つ橋線北加賀屋駅より徒歩 6 分くらいです。新病院になり 8 年。回復期病棟　42 床地域包括ケア病棟 48 床を含め 400 床の急性期病院です。病棟は 12 階建て、外来は 4 階建てで別棟です。近隣には大きな病院はなく、地域の基幹病院です。診療科目は、小児科、産婦人科、脳神経外科以外は全てあります。特徴として、腎臓内科、消化器内科、消化器外科はかなり充実しています。また麻酔科の常勤は 5 名で緊急の対応もしていただけます。診断科として一般病院には珍しい放射線科医師 2 名　病理医師 1 名が常勤医として、勤務されています。病理解剖や術中迅速も対応可能です。また、放射線科医に整形外科医とは別の視点で、CT、MRI などを診断し

ていただけます。また整形外科専門医は当然ながらリウマチ専門医を取得するための研修施設にもなっています。初期研修医のための教育担当医師がいることは特徴です。年間 1～2 名の初期研修医が在籍し、全科にわたっての研修をしています。もちろん整形外科も研修期間に入っており、専攻医が教える立場も経験できます。
リハビリのスタッフも充実し　PT　OT ST など 40 名以上が在籍。
代表手術
　原発悪性腫瘍以外の手術はほとんど全て対応しています。
年間手術症例は　約 500 例、脊椎、人工股関節、人工膝関節、骨切り術などの疾患に対する手術がそれぞれ約 20 例です。その他外傷が約 250 例です。
主治医制度をとっており、基本的には執刀医は主治医です。よって、専攻医にはほとんどの外傷の手術をしていただくことになります。
手術室はクリーンルーム 2 室含め 6 室あります。
　院内に保育所もあり、小さなお子さんのいる医師が多く利用しています。時間外などはあまりなく、遅くまでよほどのことがない限り病院にいることはありません。
　症例などに大きな偏りがないため、幅広い研修が可能です。整形外科だけでなく幅広い知識も得ることができる当病院を研修病院の一つの候補としてみてください。

●高槻赤十字病院
スタッフ紹介
部長　　徳山文人　（平成 6 年大阪医科大学卒業）脊椎脊髄外科、外傷一般
副部長　伊丹康夫　（平成 19 年大阪医科大学卒業）肩肘関節外科、外傷一般
医員　　大野博章　（平成 28 年大阪医科大学卒業）外傷一般

後期研修医　1 名
非常勤（顧問）　　岸本郁夫　（昭和 48 年大阪医科大学卒業）関節外科

　当院は創立から約 80 年の古い歴史を持つ病院であり、高槻市の北西、JR 富田駅と阪急富田駅からバスで約 15 分の高台にある風光明媚な環境に立地し、地域中核かつ地域医療支援病院としての医療と大阪医大整形外科のサテライト病院

としての機能を果たしています。関節疾患においては30年の歴史があり、当院で研修をした多くの同門の先生が関節外科を専門にしております。また日赤という性質上、地震や台風、豪雨などの自然災害への救護活動や訓練も積極的に行っております。昨年から今年にかけては大阪府と日赤本部からの要請で新型コロナウィルスに対する検査、診療を積極的に行っており、我々整形外科医員も微力ながら協力をさせてもらっています。

特色

・手術室は7室（クリーンルーム2室）あり、当科手術件数は約500件：外傷、疾病半数ずつで、基本的に主治医が執刀するので経験の浅い医師も時間は要するものの、基本的な手術手技をじっくり学ぶことができます。

・脊椎手術：頸椎椎弓形成術、脊椎固定術、内視鏡での椎間板ヘルニア摘出術（MED)、脊柱管狭窄症に対する椎弓切除術（MEL）などを施行し、ここ数年は脊椎手術の半数程度を内視鏡手術で行っている。また保存治療も十分に尽くし、各種ブロック療法、造影検査など患者立脚での治療を行っております。

・肩関節手術：リハビリテーションなどの保存療法で症状が改善しない症例に対して主に関節鏡視下手術を行っています。肩腱板断裂に対しては関節鏡下腱板修復術および関節鏡視下上方関節包再建術を施行し、反復性肩関節脱臼に対しては関節鏡視下関節唇修復術を施行しています。また、より良い治療が行えるよう理学療法士と定期的に勉強会を行っています。

・関節手術：非常勤医と連携して人工関節手術（股・膝関節)、スポーツ外傷である前十字靱帯（ACL）損傷、半月損傷の手術なども行っております。

当院は週休二日制（土日休）です。これまでに多くの女性医師に研修にきていただいており、保育所も常設しているなど女性医師にとって働きやすい病院です。

脊椎、肩関節、関節疾患に興味を持っておられる方は、是非当院に来て頂き、各種治療、手術を経験して整形外科医としての知見の拡充と手術手技の修得をしていただきたいと思います

●啜生会脳神経外科病院

スタッフ紹介

金　　基中：顧問（昭和53年卒）

小田　明彦：顧問（昭和55年卒）手外科

飯田　剛　：関節外科センター長（平成 17 年卒）関節外科
矢倉　幹啓：部長代理（平成 20 年卒）

後期研修医　1 名
非常勤医師　（週 1 日）
東迎　高聖　　（平成 18 年卒）足の外科
中村　海斗　　（平成 27 年卒）関節外科
福森　翔一　　（令和 4 年卒）

概要

　畷生会脳神経外科病院は、北河内の四條畷市にある 270 床の急性期病院です。近くにイオンモールができてから人口も増加傾向にあります。もともと外傷中心の病院でありましたが、2021 年 4 月に関節外科センターができ、飯田先生が初代センター長に就任しました。2022 年 4 月から久野先生に来ていただけることになり、関節に興味を持たれている先生は十分な研修ができることと思います。増員になったことで今まで以上に積極的な救急の受け入れや、外傷などの緊急手術にも柔軟に対応が可能となり、2023 年の手術件数は 600 件と徐々に増加傾向です。2024 年 4 月からは紹介受診重点医療機関となり、手術件数がさらに増加するものと期待しております。
また、当院に近い大学病院（関西医科大学）に足の外科を専門にされている先生が少ないことから当院で足の外科の治療を希望される患者様が多く、外反母趾や変形性足関節症、関節鏡視下手術、腓骨筋腱脱臼、後脛骨筋腱不全など足疾患の治療を大学と連携をとりながら積極的に行っています。さらに当院は、日本手外科学会教育基幹病院に認定されていることもあり、手外科関連の手術が多いのも特徴ですが、肩の関節鏡視下の手術は行っておらず、研修可能領域として上肢・手は標榜できませんが、肩の関節鏡以外の上肢・手の研修は可能です。
情報共有手段として、毎週水曜日 8 時 30 分から術前術後カンファレンスを行っています。みんなで相談し合って楽しい研修ができればと思います。

●蒼生病院

スタッフ紹介
院長　　本田　雄一　（1993 年大阪医科大学卒業）　脊椎外科、外傷

部長　　岡吉　倫弘　（2010 年近畿大学卒業）　関節外科、外傷
非常勤　　南　龍也　（1988 年大阪医科大学卒業）　名誉院長
非常勤　　大原　英嗣　（1992 年大阪医科大学卒業）　股関節外科
非常勤　　宇佐美　嘉正　（2010 年奈良県立医科大卒業）　脊椎外科

後期研修医　2 名

蒼生病院は大阪府門真市にあります。平成 29 年 7 月からは新病院が稼働しました。現在は 129 床の一般急性期病床と 21 床の地域包括ケア病棟で診療しています。新病院では手術室にクリーンルームを完備、院内には保育所もあります。その他の施設も充実しており、患者様にとっても職員にとっても快適な環境となっております。病院を開設された阪本弘彦理事長（昭和 44 年入局）をはじめ、南龍也名誉院長（昭和 63 年入局）も大阪医科大学整形外科学教室の同門の先生です。同門の先生が病院の経営や運営のトップにいることは、整形外科医員として非常に恵まれた職場環境であると考えられます。臨床面では、病院が立地している周囲の整形外科開業医が少ないため、外来業務が多彩で救急を含めた外傷から慢性疾患まで、整形外科医としての外来業務はほぼすべて網羅できます。外来診療は教育や指導が行き届くように、必ず 2 人以上で行っています。当院では研修医の先生も、さまざまな疾患について一人の患者様を外来診療から手術治療その後の外来経過観察までを、自己完結型で行えるようにと考え指導しています、このことは高度に専門化された大病院では経験のできない大切なことだと思います。手術は外傷症例を中心に関節・脊椎症例についても積極的に行っており、2023 年は合計 617 件でした。非常勤医師として、市立ひらかた病院主任部長の大原先生・大学病院助教の宇佐美先生が勤務されていますので、股関節鏡を含めた最新の股関節外科や、大学病院で行われている高いレベルの脊椎外科の治療も可能になっています。また、研修医の先生にはできるだけ余裕を持った研修を行ってもらえるように、週休 2 日制や、当直明けの外来業務や手術業務が入らないような勤務体制をとっています。

●<u>佐藤病院</u>
スタッフ紹介
副院長 部長　白井久也（昭和 60 年　大阪医科大学卒業)、手外科 肘関節外科

副部長　　黒川義隆（平成 17 年大阪医科大学卒業)、脊椎外科
副部長　　嶋　靖子（平成 9 年　神戸大学卒業）　骨粗鬆症
顧問　　瀬本喜啓　（昭和 53 年 大阪医科大学卒業）　小児整形　側弯症

佐藤病院は京阪牧野駅から車で 7 分の距離にある地域密着型の急性期病院です．広大な同一敷地内に，特別養護老人ホーム，介護老人保健施設，健診センターを有しています．急性期病棟 120 床と 2022 年に増築した地域包括ケア病棟 57 床の計 177 床の病院です．1 日外来患者数は約 540 人，平均在院日数は 12.2 日，病床利用率は 96%の活発な病院です．
外科，整形外科，内科が主な診療科で，大阪府がん診療拠点病院でもあります．
整形外科分野では，日本整形外科学会研修指定施設，一般社団法人日本手外科学会の基幹研修施設を取得しています．
整形外科の専門外来として手外科、脊椎外科があります．過去 5 年間の手術件数は，2020 年度 438 件，2021 年度は 401 件，2022 年度は 406 件，2023 年度は 398 件， 2024 年度は 384 件でした。
民間ならではの効率よい診療，ケアが特徴で，外来クラークによる診療支援が充実しており，全ての仕事をおおむね 17 時過ぎには終えることができます．
スタッフが少ないゆえに研修医の先生も短期間で即戦力となり執刀を任されると思います．どうぞ枚方北部の病院にいらしてください．

●男山病院
スタッフ紹介
病院長・理事　荒木雅人（昭和 63 年大阪医科大学卒業)、関節外科、リウマチ
副院長　　山﨑　久（昭和 63 年大阪医科大学卒業)、外傷外科、骨粗鬆症
部長　　澤辺一馬（平成 4 年神戸大学卒業）形成外科専門医、
手外科専門医、リウマチ、関節外科
医長　　南　瑠那（平成 20 年京都大学卒業）外傷外科、手、リウマチ、
関節外科

当院は平成２１年４月より旧関西医科大学付属男山病院を事業継承し、美杉会男山病院となりました。京阪本線樟葉駅よりバスで１０分以内、近くにはニュウータウンとして発展著しい松井山手・京田辺地区があります。

平成２６年４月に旧病院を新築し、199 床（一般急性期 127、回復期リハビリテーション病棟 47、緩和ケア病棟 25）の病院に生まれ変わりました。
同法人の佐藤病院や多くの介護系施設、人工透析クリニックなどと地域住民の方々が住み慣れた地元で急性期医療からがん治療、老人保健施設、サ高住までカバーできる地域完結型サービス、断らない救急医療を提供しています。
整形外科の年間手術件数は 649 件、一般外傷はもちろん関節、手外科、脊椎、リウマチなど専門的な診療を行っています。現在、整形外科専門医は上記４名、非常勤医師として金　明博医師（昭和５９年大阪医科大学卒業）が脊椎・脊髄外科を担当、瀬本喜啓医師（昭和５３年大阪医科大学卒業）が小児整形外科を担当、安田稔人医師（昭和 63 年大阪医科大学卒業）が足の外科、藤尾圭司医師（昭和６０年大阪医科大学卒業、おおさかグローバル整形外科院長）が手外科難治症例担当、三宅孝宏医師（平成 14 年京都大学卒業）が肩関節外科、スポーツ整形を担当しています。内科、外科をはじめ他科との連携も取りやすく、多くの症例を経験、勉強することが可能です。形成外科専門医が常勤で２名在籍しており、マイクロサージャリー、皮弁手術など専門的な症例の経験もできます。
また、地域医療部門として在宅医療（利用者 521 名）、訪問看護（383 名）、人工透析（患者数 344 名）と充実しており、将来、地元で開業を考えておられる若い先生方にとって、たいへん参考なると確信しています。
５年前より骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS）活動が本格稼働し、多くの骨粗鬆症マネジャーと積極的に活動を広げているところです
当院は日本リハビリテーション医学会、日本リウマチ学会認定研修施設でもあります。研修期間の短い時間で直接多くの症例を経験できる当院に是非、お越し下さい。

●河端病院

スタッフ紹介
理事長 河端博也（昭和 60 年大阪医科大学卒業）脊椎・脊髄外科、外傷
院長 渡邉千聡（平成２年大阪医科大学卒業）肩の外科、スポーツ整形、外傷
副院長　末原　洋（平成９年京都府立医科大学卒業）膝・股関節、外傷

河端病院は昭和 39 年に京都市右京区で開院されました。近くには嵯峨野、嵐山といった観光地がある長閑な地域であるためか、患者さんも穏やかな方が多く

アットホームな雰囲気の中で治療を行うことが出来る病院です。平成 25 年に JR 太秦駅前に移転しましたが、病院より駅までは 1 分もかからないという好立地条件にあり、嵯峨野線に乗車すれば京都駅から約 16 分で病院まで到達することが出来るため京都市内はもちろん大阪や滋賀、奈良からの通勤にも非常に便利な位置に存在します。
50 床からなる整形外科中心の急性期病棟を有しており、院内に CT、MRI を完備しています。救急指定を受けており、年間約 500 件の救急が搬入されまが、その約 9 割が整形外科疾患です。その中には高齢者の外傷も多く、そのほとんどが多くの合併症をもたれています。そんなときにも内科、外科と密に連携し直接医者同士で話し合いながら治療にあたれることが我々のような小さな病院での大きな強みであります。また、最近は多くの病院が急性期のみの治療を行い回復期は他院でリハビリを行う事が多くなっていますが、当院は地域密着型の病院であるため出来るだけリハビリも自院で行い受傷から在宅まで一連の治療を継続して行なう事を心がけています。手術のみではなく術後の入院での経過やリハビリ、また在宅になっても外来で経過を見ることができるなど、一貫して自ら治療を行えることは後期研修医にとっては非常によい勉強になると考えます。
令和 7 年度は 534 件の手術を行いましたが年々増加傾向にあります。
外傷の手術が約 75%を占めますが野球肘、肩腱板断裂等に対する肩・肘鏡視下手術、THA（63 件）、TKA（77 件） なども施行しています。
また手術時には必ずエコーガイド下の神経ブロックを行い術後疼痛管理に用いています。様々な神経ブロックの手技を習得出来るのも当院で研修していただくメリットと考えています。是非アットホームな雰囲気のなかで幅の広い有意義な研修をしていただき今後の整形外科のなかでのスペシャリティ確立の一助としてください。

●新河端病院

スタッフ紹介

市場　厚志	外傷、膝関節外科
松山　洵也	外傷、股関節外科
宮本　照史	外傷

当院は京都洛西太秦の河端病院を母体として昭和 47 年に日本の古い首都・長岡

京に開院しました。現在内科・外科・消化管センター・整形外科を中心に 99 床の病床で地域の治療にあたっています。　整形外科の入院患者は 30 人前後ですが、年間 420 件くらいの外傷を中心とした手術を行っています。

　場所が長岡京市にあり比較的大学病院に近く、サテライト病院としての機能もはたしており、非常勤で大学から週に 1 回ずつ関節・脊椎・腫瘍の先生に来てもらっており、幅広い範囲での手術が可能です。

小規模の病院ではありますが、近隣の病院・医院との連携も強く、多くの症例を経験ができると思います。また整形外科としての当直業務はなく、日々の外来、手術に集中することができ、余裕も持った研修が可能です。

●永山病院

スタッフ紹介

院長代行　　成山雅昭（昭 63 年大阪医科大学卒業）　手の外科 関節リウマチ

整形外科部長　村越 太　（平 14 年大阪医科大学卒業）　脊椎外科

整形外科部長　辻中誠也（平成 20 年大阪医科大学卒業）　足の外科

整形外科医員　都倉稔功（令和 5 年高知大学卒業）　専攻医

非常勤医師　　北野直　（平成 8 年大阪医科大学卒業）　足の外科

非常勤医師　　石谷貴　（平成 26 年大阪医科大学卒業）関節外科

非常勤医師　　高島雅俊　（平成 28 年近畿大学卒業）　足の外科

当院は昭和 33 年、大阪府泉南郡熊取町に「永山外科医院」として開設され、昭和 45 年に医療法人三和会を設立。以降、46 床の内科・外科・整形外科を中心とする病院として地域医療の提供を開始いたしました。昭和 63 年には総病床数 350 床（急性期 148 床、療養型 202 床）のケアミックス型病院へと拡充し、現在では熊取町唯一の二次救急医療機関として、地域の中核を担う医療機関として機能しております。

さらに地域の高齢化に対応すべく、平成 29 年 11 月には関西国際空港の対岸に位置する泉佐野市りんくうタウン内に「りんくう永山病院」を新設。回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟を有し、幅広いニーズに対応する体制を整えております。また、退院後の継続的なケアを目的として、近隣には介護老人保健施設「ライフケア永山」や、特別養護老人ホーム「永楽荘」など

の関連施設も併設しており、医療・介護・福祉を包括したシームレスな地域支援を展開しています。
整形外科においては、日本の高齢社会を反映し、骨粗鬆症に起因する骨折、変形性関節症、脊柱管狭窄症などの退行性疾患を中心に診療を行っております。保存的治療にとどまらず、積極的に手術加療も実施しており、診療から術後フォローアップまで一貫した医療を提供しています。
手術は週 4 日、整形外科の専用枠として手術室 2 室を稼働させ、計画的かつ円滑に対応しております。加えて、手術件数の増加に対応するため、緊急手術にも対応可能な院内支援体制を整備し、迅速な対応を可能にしています。
後期研修医の先生方には、週 3 コマの外来診療に加え、夜間診療および当直業務をお願いしております。業務は多岐にわたりますが、それに伴い得られる臨床経験と技術の習得は非常に大きく、将来を見据えた研修環境として充実した内容となっております。
教育方針としては、外傷症例に加え、脊椎疾患や関節疾患などについても、主治医として責任を持って診療・執刀いただきます。手術においては、たとえ長時間を要する場合であっても、指導医の下で自身が執刀を担っていただきます。これは「大きな力には大きな責任が伴う」ことを実感していただきながら、一人前の整形外科医としての技量と自信を培うための重要なプロセスです。
最前線の臨床現場で、共に研鑽を積んでまいりましょう。

●奈良友紘会病院

スタッフ紹介

副院長・整形外科部長　　瀬木治郎（昭和 57 年大阪医科大学卒業）
整形外科一般、外傷、骨粗鬆症

医員　　天野裕基（平成 26 年近畿大学医学部卒業）
整形外科一般

奈良友紘会病院は奈良県北葛城郡上牧町にあり、昭和 63 年に開設されました。アクセスは JR 天王寺から大和路快速で JR 王寺まで 20 分、そこからバスで 15 分で病院に到着します。車では西名阪道香芝インターで降りて、約 10 分の距離にあります。医療圏は西和という奈良県の西端で大阪府との境に接した人口約 330000 人を有する地域になります。病床数は一般病床 192 床、診療科は整形外

科をはじめ内科、外科、脳神経外科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、歯科・口腔外科です。また車で数分の位置に系列病院の西大和リハビリテーション病院（回復期リハ病棟+療養病棟、199 床）があり各科ともに回復期のリハビリテーションをお願いしています。地域柄後期高齢者が多いですが、周囲は住宅地で穏やかな患者層です。昨年の外来新患数は約 1800 名で疾患内容は外傷をはじめ頸椎から足まで多岐にわたります。研修医の先生には各症例とじっくり向き合い、治療スケジュールを自分で立て治療を自らの手で完遂する経験をしていただきたく思い、そのお手伝いができればと考えています。ですから手術時の執刀はできる限り研修医の先生に行っていただきます。年間手術件数は 228 件（2024 年、骨内異物除去術含む）と決して多くないですが、直接関われる件数としては不足ないと思います。内訳は外傷が主ですが、脊椎や上肢、下肢の疾患の手術も行っており、脊椎や関節疾患の手術で、高度なスキルが必要な場合は関連病院内からその道のオーソリティーを招聘して手術を行いますので、これからの自分の進む道を選ぶうえで、よい経験が得られると思います。開設以来 24 名の先生が当院で後期研修をされ、今はそれぞれの場で活躍されております。一症例一症例、じっくり取り組み考えながら治療を進め、治療過程のすべてに関わっていくという経験がしてみたい、という研修医の先生にとっては最適の施設であると自負しています。また日々時間に追われることは少なく、専門医試験対策などスキルアップのための勉強時間を取ることもできます。最近はコロナ禍の影響で行われていませんが、恒例の年間行事として新年会、お花見、納涼会、慰安旅行、忘年会がありますことを申し添えておきます。

●加納総合病院

スタッフ紹介

副院長　部長 納田真也（平成 10 年大阪医科大学卒業）脊椎・脊髄外科、外傷

上肢外傷センター長　森本法生（昭和 59 年 兵庫医科大学卒業）手の外科、外傷

リハビリセンター長 下裕司（昭和 59 年 大阪医科大学卒業）リハビリ・脊椎・脊髄外科

後期研修医 2 名

当院は大阪市北区の天神橋筋六丁目駅が最寄り駅で、周囲の地域医療に携わ

ってきましたが、昨年 70 周年を迎えることができました。そして社会医療法人である加納総合病院はオールラウンドな総合病院として 24 時間体制で対応する救急病院の役割を担っていますが、急性期病棟だけでなく回復期病棟や療養病棟も備わったケアミックス型の総合病院で、早期回復に向けて目的にあった入院治療を効率良く行うことが可能になりました。特に二次救急には力をいれており年間 5000 件程度で、二次救急医療機関としての使命を果たすとともに地域医療の充実にも努力しており、通常診療での地域の患者割合は年々増加傾向にあります。現在、整形外科は 5 名の常勤医師が所属し、各スタッフは整形外科全般の診療とともに個々の専門性を活かし外傷や各疾患について適切な治療に努めています。 整形外科の年間手術件数は 600 件程度で約 6 割 が救急外傷に関する手術です。手術室はほぼ毎日使用可能であり、特に年間約 150 件の大腿骨近位部骨折は骨粗鬆症リエゾンサービスとの連携もとれていて半数以上で早期手術加算（受傷後 48 時間以内）も算定できています。また脊椎手術はナビゲーションシステムを使用した脊椎固定術や、フルハイビジョンでの脊椎内視鏡手術も行っています。脊椎症例は救急外傷の保存治療も含めると豊富です。 後期研修医の勤務内容は手術以外に週 2 日の外来と週 1 日の夜診当直です。 当直翌日と土曜日は半日のみの勤務です。主治医制ですので担当した症例は全例執刀していただきますが、必ずスタッフがサ ポートしますので安心して下さい。 その他、当院は全日本病院協会大阪府支部の災害時医療支援活動幹事指定病院 でもあり、全日本病院医療支援班（ＡＭＡＴ：All Japan Hospital Medical Assistance Team）に属しています。南海トラフ地震などの災害時に民間病院災 害支援の任務を遂行できるように、院内防災訓練から政府主催の大規模地震時 医療活動訓練まで参加しています。整形外科だけではなく災害支援にもご興味を持たれている方は大歓迎です。コロナ禍も落ち着き、昨年より病院や病棟の歓送迎会、70 周年記念としての沖縄への院内旅行など充実したレクリエーションも再開しました。楽しい職場環境で実りある研修になるよう我々と一緒に頑張りましょう。

●八戸の里病院

スタッフ紹介

丸山　貴資（平成 3 年大阪医科大学卒業）関節外科

内田　明宏（平成 2 5 年大阪医科大学卒業）肩関節外科

医員	非常勤	中村　海斗（平成 27 年大阪医科大学卒業）	関節
	非常勤	山本　祐樹（平成 28 年大阪医科大学卒業）	脊椎

当院は、整形外科をはじめ、リウマチ科、内科、外科、脳神経外科、循環器内科、心臓血管外科、リハビリテーション科を標榜しております。高齢化社会の波の中、100 歳を超える症例もありますが、他科の支援を受け、チーム医療の充実を図りながら、高齢者の方々にも安心して治療を受けていただいております。また、術後のリハビリテーションでは 11 名の理学療法士が個別ニーズに応じたリハビリテーションを実施しており、患者様には大変喜んでいただいております。今年度より、中村海斗先生と山本祐樹先生に来ていただき、手術症例の増加並びに新しい手術法を取り入れる等、更なる発展に努めていきたいと考えております。また、関連施設として、特別養護老人ホーム 1 施設、介護老人保健施設 2 施設、グループホーム 1 施設があり、それらの施設と連携し、当院の高齢者の方々の退院後のケアにあたっております。グループ全体で地域の高齢者医療と介護分野での社会貢献を目的に活動しております。

今後も地域密着型の病院として、地域の皆さんに貢献できる医療機関として邁進していく所存でございます。引き続き、今後とも先生方のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

●枚方東整形外科病院（旧高井病院）

スタッフ紹介

理事長　高井亮輔（平 28 年神戸大学卒）外傷　一般整形外科

医師　市村善宣（平成元年大阪医科大学卒業）脊椎外科

後期研修医　1 名

枚方東整形外科病院は高井病院として昭和 58 年 4 月に設立、その後は約 40 年にわたり地域密着型の病院として地域医療に貢献してきました。現在，急性期病床は 22 床と少なめですが，手術後は早期退院･社会復帰を目指し，また地域包括･療養病床への転床を円滑に実施することで急性期病床の回転率を上げて対応しています．また令和 6 年 1 月から新たに枚方東整形外科病院として名称を変更いたしました。

整形外科症例の内訳は，一般的な整形外科外傷や疾患が多く集まり幅広い症例

が経験できる一方で，手外科領域の再建や脊椎・関節疾患，スポーツ整形外科など専門的な医療も提供しています．できるだけ MIS などを導入し，術後は PT ・OT と協同し適切な訓練を行うことで早期の機能回復を目指します．特に股関節（BHA, THA）では前方展開（DAA）を用いて筋組織の温存を図り，また脊椎・骨盤の脆弱性骨折では積極的に低侵襲固定を行い高齢者の早期離床を実践しています．
整形外科スタッフは上記常勤 3 名の他 3 名の非常勤専門医で構成され，外来診療と手術、救急対応をこなします。入院患者は常勤医の主治医制をとり，執刀は基本的に主治医が担当しますので，研修医の先生方には充分な実経験が得られます．また，入院から退院後 F/U まで担当患者とじっくり向き合うことで整形外科診療の運営など横断的な知識も習得できればと思います．

●城山病院　整形外科

常勤スタッフ

副院長　熊野穂積（昭和 63 年大阪医科大学卒、足の外科、骨折外傷）

整形外科主任部長　／　低侵襲脊椎外科センター　センター長

坪井競三（平成 10 年大阪医科大学卒、脊椎脊髄外科）

整形外科部長　／　人工関節・膝関節再建センター　センター長

村上友彦（平成 21 年大阪医科大学卒、股関節膝関節外科、骨折外傷）

整形外科副部長　／　低侵襲脊椎外科センター　副センター長

米井数基（平成 26 年近畿大学卒、脊椎外科、骨折外傷）

後期研修医　1 名

顧問　1 名

非常勤スタッフ

木下明彦（平成 14 年大阪医科大学卒、手外科、きのした整形外科）ほか 2 ～ 3 名

昨年度は年間 1220 件の脊椎、関節、外傷関連の手術を行いました。そのうち脊椎が 400 件弱、関節が 500 件強と増加傾向です。脊椎手術に関しては、O アーム CT とナビゲーションを用いた前方固定術が増加、腰仙椎移行部に対しても施行しています。低侵襲手術も 2 portal などの最新の手技の導入などさらに

進化を続けています。関節手術に関しても、ロボットやナビゲーション、両側同時手術が標準的となり、症例数の増加には目を見張るものがあります。

本年度から回復期リハビリテーション病棟に常勤リハ医２名が赴任したため急性期病棟から回復期病棟に転棟した患者様に関しての主治医をお願いすることができるようになったため、さらに急性期治療に力を注ぐことができるようになる見込みです。また、病院内での実績が最もよいこともあり、手術器機の購入や手術室の使用などが優遇されているようにも思われます。病院全体としてもコスト意識を改善することなどにより黒字化を達成することができ、良い雰囲気となってきていると感じています。

3. 大阪医科薬科大学病院整形外科専門研修の目標

① 専門研修後の成果

整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、運動器疾患に対する高い臨床能力と医師の倫理観を身につけることができます。

② 到達目標

整形外科医としての専門知識

運動器疾患に関する基本的な知識を身につけていただきます。これらの知識は将来の研究や診療に応用することができます。

臨床医としての専門技能(診察、検査、診断、処置、手術)

整形外科医としての基本的な専門技能(診察、検査、診断、処置、手術)を身につけていただきます。研修プログラム修了後には、これらの技能をさらに発展させることにより新しい治療方法の開発を目指すことができます。

研究者としての思考力

症例を経験することにより病態や治療に関して多くの疑問が湧くと思われますが、これらの疑問に対する答えを科学的に導き出す思考力を身につけていただきます。学会発表や論文作成を経験することにより、プロトコール（研究計画）作成、文献検索、統計解析、個人情報の管理などの研究の基礎を学んでいただきます。

医師としての倫理観

- 医師としての責務を自律的に果たす(プロフェッショナリズム)

“医師と社会の契約”を十分に理解し、患者から信頼される知識、技能および態度を身につけていただきます。本研修プログラムにおいては、指導医とともに患者への説明に参加し、実際の治療過程においては受け持ち医として患者と接していく中で医師としてのアイデンティティを確立していただきます。

- 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮する

本研修プログラムにおいては、病院で義務付けられる職員研修に参加することで医の倫理と医療安全に関して学ぶことができます。

- 臨床の現場から学ぶ

臨床の現場から学ぶことの重要性を認識し、その方法を身につけていただきます。本研修プログラムでは、知識を単に暗記するのではなく、「患者から学ぶ」という姿勢で症例を経験し、指導医とともに診断と治療のプロセスを考えるプログラムになっています。毎週行われる症例検討会や術前・術後カンファレンスにおいて専攻医の考えを医局員全員と議論することで、専攻医はさらに理解を深めることができます。

- チーム医療の一員として行動する

本研修プログラムでは、専攻医はチーム医療の一員として診療に参加します。個々の症例に対して他のメディカルスタッフと協調しながら、指導医とともに診断と治療の計画を立てます。そのためチーム医療の中での協調性やリーダーシップなどを学ぶことができます。

- 後輩医師に教育・指導を行う

研修の中では、後輩専攻医や学生がチーム医療に加わることがあります。そのような場合には、後輩専攻医や学生にすでに学んだ知識や考え方などを教える機会に恵まれます。教えるという行為により知識を整理し、理解を深めるという効果が期待できます。さらには指導者の考え方や視点を理解することができます。

③経験目標

- 経験すべき疾患・病態

本研修プログラムでは、全ての領域（脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリ、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍）において、日本整形外科学会が規定する“経験すべき疾患と病態”を経験することができます。

- 経験すべき診察・検査等

研修マニュアルに記載されている診察、検査を全て経験することができます。

- 経験すべき手術・処置等

大阪医科薬科大学整形外科と連携施設において、研修修了要件を満たすために必要な数の手術と処置を経験することができます。

- 地域医療の経験

本研修プログラムの連携施設には地域医療研修病院が含まれています。そのため 4 年間の研修の間に必要単位数（3 単位）の地域医療を研修することができ

ます。

- 学術活動

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、30単位を修得することができます。また経験した症例に関して学会発表や論文作成（筆頭著者）を行っていただきます。大阪医科薬科大学整形外科同門会が主催する整形外科教育研修会(年2回3講演、4年間で12講演)に参加することにより、他大学整形外科教授からの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。

4. 大阪医科薬科大学病院整形外科専門研修の方法

① 臨床現場での学習

指導医が診察方法、診断するための考え方、検査方法、手術手技などを丁寧に指導します。病態と手術手技を十分に理解できていると判断された専攻医においては手術の執刀をする機会が与えられます。研修修了までに 160 例以上の手術を経験し、そのうち術者としては80例以上を経験していただきます。医師の倫理観を身につけていただくために、患者との接し方を指導医から学びます。

②臨床現場を離れた学習

日本整形外科学会学術集会や大阪医科薬科大学整形外科同門会の際に開かれる教育研修講演(医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む)に参加していただきます。指導医の研究活動に参加した場合には、その研究結果を学会で発表し、論文を医学雑誌に投稿していただきます。担当患者に関する症例報告を行っていただくこともあります。大阪医科薬科大学整形外科医局の抄読会においては、最新の英語論文を読み、要点をまとめて発表していただきます。

③自己学習

日本整形外科学会作成の整形外科卒後研修用 DVD や大阪医科薬科大学図書館を利用することにより、診断・検査・治療等についての自己学習をしていただきます。大阪医科薬科大学整形外科の医局や研究室では、英語論文をダウンロードして読むことができます。指導医は文献検索方法から論文の読み方まで教えます。

5. 専門研修の評価について

①形成的評価

- フィードバックの方法とシステム

各施設における研修を修了した時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行っていただきます。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行っていただきます。

指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。これらの評価は日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムから web で入力します。指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的なフィードバックを行います。

- **指導医のフィードバック法の学習(FD)**

指導医は、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努めます。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案(研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成)、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

②総括的評価

- **評価項目・基準と時期**

研修 4 年目の 12 月に、研修目標達成度評価報告と経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理観などを修得できたかどうかを判定します。

- **評価の責任者**

年次毎の評価は専門研修基幹施設（大阪医科薬科大学）や連携施設の指導医が行います。研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

- **修了判定のプロセス**

大阪医科薬科大学の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。 修了認定基準は、

1) 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること
2) 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
3) 臨床医として十分な適性が備わっていること
4) 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること
5) 1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文があること

の全てを満たしていることです。

- **他職種評価**

専攻医に対する評価判定に他職種(看護師、技師等)の医療従事者の意見を加えて医師としての全体的な評価を行い、専攻医評価表に記入します。専攻医評価表には指導医名以外に医療従事者代表者名を記します。

6. 研修の施設群について

専門研修基幹施設

大阪医科薬科大学整形外科が専門研修基幹施設となります。

専門研修連携施設

大阪医科薬科大学整形外科研修プログラムの連携病院は大阪府、京都府、兵庫県、奈良県にあり、以下の通りです。

専門研修連携施設

大阪府

・関西医科大学
・大阪医科薬科大学三島南病院
・葛城病院
・第一東和会病院
・北摂総合病院
・城山病院
・済生会茨木病院
・南大阪病院
・高槻赤十字病院
・畷生会脳神経外科病院
・蒼生病院
・市立ひらかた病院
・永山病院
・佐藤病院
・加納総合病院
・八戸ノ里病院
・枚方東整形外科病院

京都府

・洛西シミズ病院
・河端病院
・新河端病院
・男山病院

兵庫県

・西宮協立脳神経外科病院
・ベリタス病院

奈良県

・奈良友紘会病院

7. 専攻医受入数

本研修プログラムにおける“症例数（新患数と手術数）から求めた募集可能人数”は 43 人、“指導医数による年間募集可能人数”は 53 人であることから、本研修プログラムに参加した専攻医は、十分な指導を受けながら多くの症例数を経験することができるといえます。大阪府のシーリングがあり基幹病院では 7 人の専攻医を受け入れることができます。

8. 地域医療・地域連携への対応

整形外科専門医制度は、地域の整形外科医療を守ることを念頭においています。本研修プログラムでは、地域医療研修病院に 3 ヶ月(3 単位)以上勤務することにより地域医療を学ぶことができます。

9. サブスペシャリティ領域との連続性について

本研修プログラム中に専攻医がある専門分野に興味を示し、プログラム修了後にその分野をさらに学びたいと希望される場合には、大阪医科薬科大学整形外科の大学院に進学してその分野の研究活動に参加したり、専門的な手術手技を学んだりすることができます。その場合は大阪医科薬科大学整形外科のスタッフが指導します。海外での研修を希望する場合には、大学院進学後にアメリカやヨーロッパの有名大学に留学することも出来ます。

10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになります。疾病の場合は診断書を、妊娠・出産の場合はそれを証明する書類を提出する必要があります。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

11. 専門研修プログラムを支える体制

①専門研修プログラムの管理運営体制

整形外科専門研修プログラム管理委員会を設置し、毎年研修プログラムの見直しを行います。基幹施設である大阪医科薬科大学と連携施設においては、指導管理責任者および指導医を配備します。

②労働環境、労働安全、勤務条件

1）労働環境、労働安全、勤務条件等は各専門研修基幹施設や専門研修連携施設

の病院規定に従います。
2) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
3) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
4) 過剰な時間外勤務を命じません。
5) 施設の給与体系を明示し、4 年間の研修で専攻医間に大きな差が出ないよう配慮します。
6) 専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従います。さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始の時点で説明を行います。
7) 総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容を研修プログラム管理委員会に報告します。報告内容には労働時間、当直回数、給与など、労働条件が含まれます。

12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

①研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムを用いて、整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価および症例登録を web 入力で行います。

②人間性などの評価の方法

指導医は研修カリキュラム「医師の法的義務と職業倫理」の項に記載されている医師としての適性を指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表を用いて入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、倫理観、責任感を評価します。

③プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した①整形外科専攻医研修マニュアル、②整形外科指導医マニュアル、③専攻医取得単位報告書、④専攻医評価表、⑤指導医評価表、⑥カリキュラム成績表を用います。③、④、⑤、⑥は整形外科専門医管理システムを用いて web 入力することができます。

13. 専門研修プログラムの評価と改善

①専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、ローテーション終了時(指導医交代時)ごとに専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより研修プログラムの改善を継続的に行います。専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないように保証します。

②専攻医等からの評価(フィードバック)をシステム改善につなげるプロセス

専攻医は、各ローテーション終了時に指導医や研修プログラムの評価を行います。その評価は研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出します。研修プログラム管理委員会では提出された評価を共有し、研修プログラムの改善に生かします。

③研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査に対して研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者ならびに専門研修指導医、および専攻医は真摯に対応し、プログラムの改良を行います。専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

14. 専攻医の採用と修了

① 応募資格

初期臨床研修修了および日本整形外科学会に加入済みまたは加入予定の者であること。

②採用方法

基幹施設である大阪医科薬科大学病院整形外科に置かれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表します。毎年説明会を複数回行い、整形外科専攻医を募集します。

翌年度のプログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『大阪医科薬科大学整形外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出します。 申請に関するご相談は、(1)大阪医科薬科大学病院整形外科のホームページ(https://ort-ompu.com)、(2)整形外科医局に電話で問い合わせ(072-683-1221)、(3)e-mail で問い合わせ (担当者:宇佐美嘉正 yoshitada.usami@ompu.ac.jp)のいずれかの方法で受け付けています。原則として書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。

③修了要件

1) 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
2) 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
3) 臨床医として十分な適性が備わっていること。
4) 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
5) 1 回以上の学会発表を行い、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。

以上 1)～5)の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 12 月以降に統括責任者

が修了判定を行います。